

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Interim Business Report

第112期 中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

藤倉化成株式会社



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第112期中間期（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2022年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、景気の緩やかな持ち直しの動きがみられたものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大に加え、自動車生産台数の減少、原材料価格の高騰などの影響を大きく受けており、今後も予測を許さない状況が続くものと思われます。

海外経済におきましても、ウクライナ情勢の長期化に加え、世界的な半導体不足、エネルギー価格の高騰などもあり、今後も先行き不透明な状況で推移するものと思われます。

各セグメントにおきまして、原材料価格の高騰を受けて収益が圧迫される結果となりました。価格交渉をはじめとした収益改善の取り組みを進めてまいります。

このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は255億30百万円（前年同期比2.0%増）となり、営業利益は2億22百万円（同82.9%減）、経常利益は3億55百万円（同73.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億33百万円（同85.4%減）となりました。

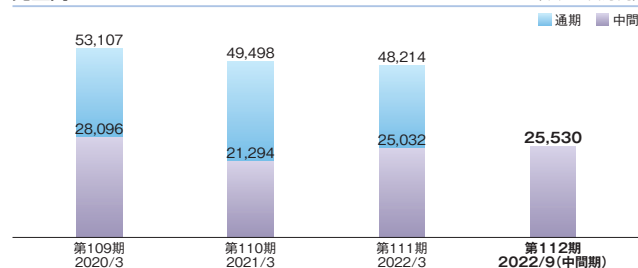
株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 加藤 大輔

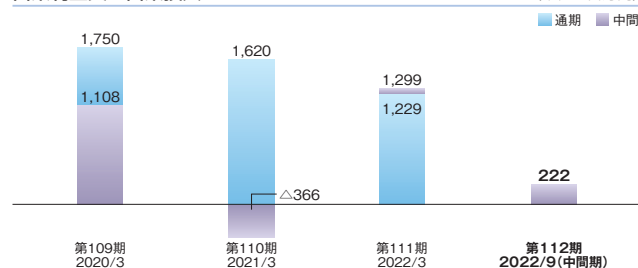
Financial Highlights

連結財務ハイライト

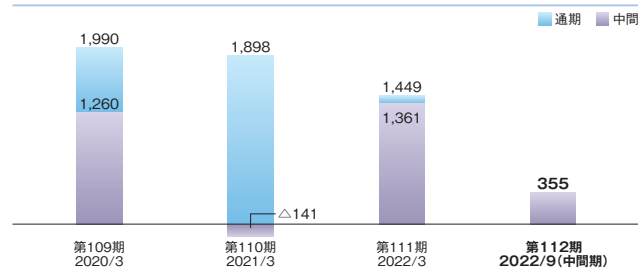
売上高 (単位：百万円)



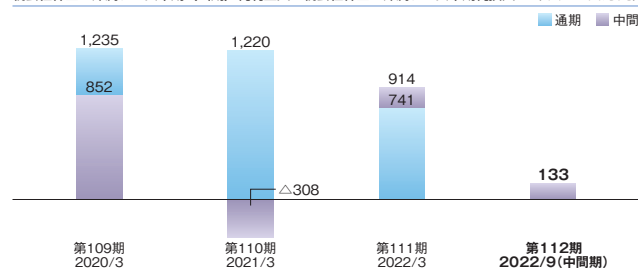
営業利益又は営業損失 (単位：百万円)



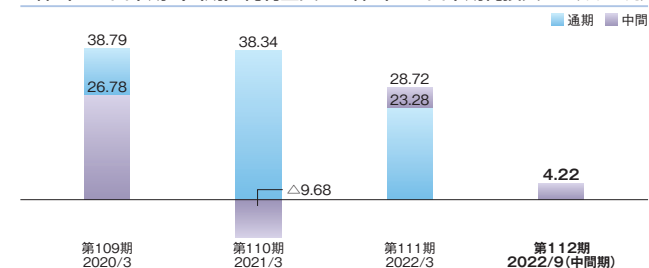
経常利益又は経常損失 (単位：百万円)



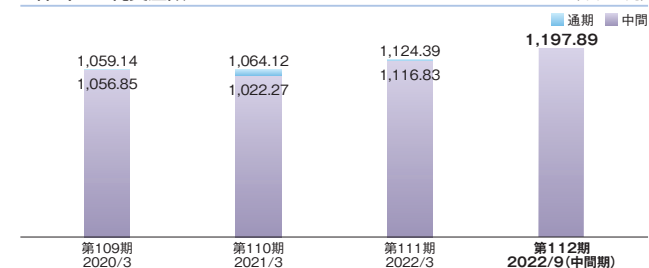
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (単位：百万円)



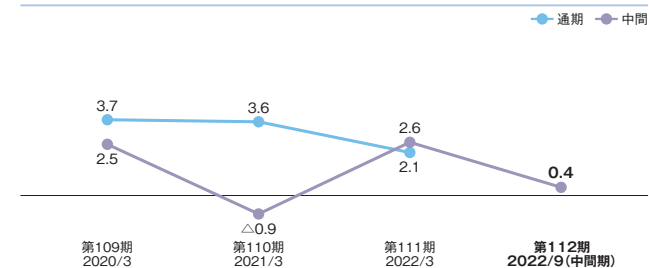
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失 (単位：円)



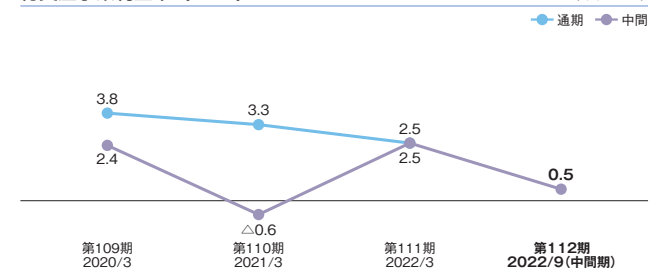
1株当たり純資産額 (単位：円)



自己資本利益率 (ROE) (単位：%)



総資産事業利益率 (ROA) (単位：%)



Segment Review

(単位：百万円)

コーティング事業



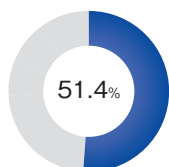
主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

主力の自動車向け塗料は、主要顧客の減産の影響等により国内の需要は低調に推移いたしました。海外では、生産台数の回復と値上げ効果もあり売上は堅調に推移いたしました。

非自動車分野におきましてはホビー用塗料が中国のロックダウンの影響を受け、販売が低調に推移いたしました。

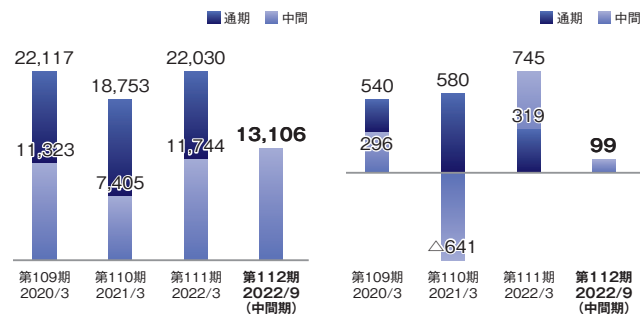
この結果、売上高は131億6百万円（前年同期比11.6%増）となり、営業利益は99百万円（同86.7%減）となりました。



売上高構成比

売上高
131億6百万円
(前年同期比11.6%増)

営業利益
99百万円
(前年同期比86.7%減)



塗料事業



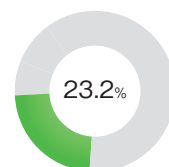
主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

新築向け塗料の販売は、一部顧客のウッドショック等による受注制限の影響で、前年同期比で微減となりました。

リフォーム向け塗料の販売は、主要顧客において高耐久化や外壁のタイル化により塗り替え対象物件が減少していることを受け、需要が低調に推移いたしました。

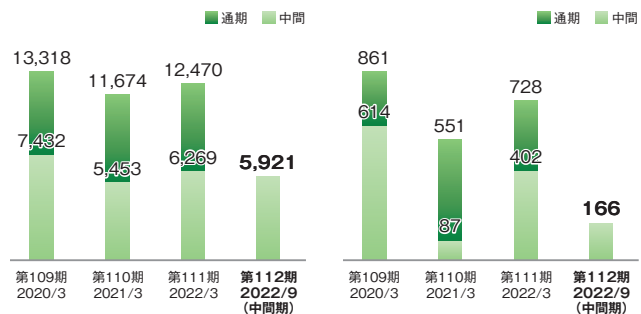
この結果、売上高は59億21百万円（同5.6%減）となり、営業利益は1億66百万円（同58.8%減）となりました。



売上高構成比

売上高
59億21百万円
(前年同期比5.6%減)

営業利益
1億66百万円
(前年同期比58.8%減)



電子材料事業

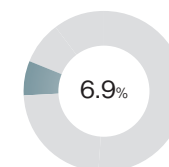


主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

パソコン向け製品の販売は需要の低下、車載向け製品の販売は顧客の減産により低調に推移いたしました。IOT家電向け製品の販売は、好調に推移いたしました。

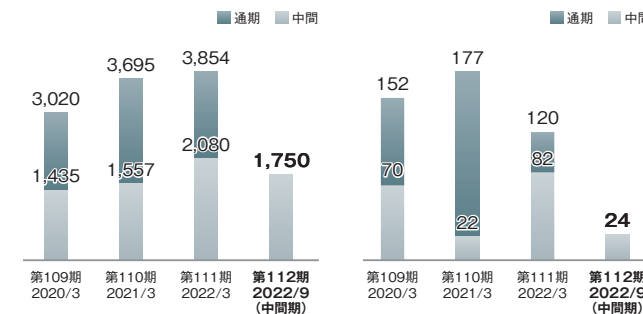
この結果、売上高は17億50百万円（同15.9%減）となり、営業利益は24百万円（同70.2%減）となりました。



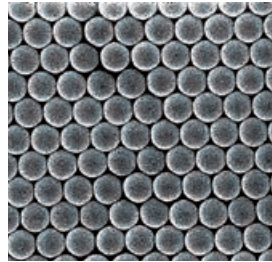
売上高構成比

売上高
17億50百万円
(前年同期比15.9%減)

営業利益
24百万円
(前年同期比70.2%減)



化成品事業



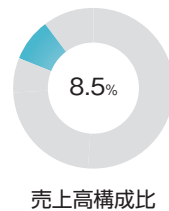
主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

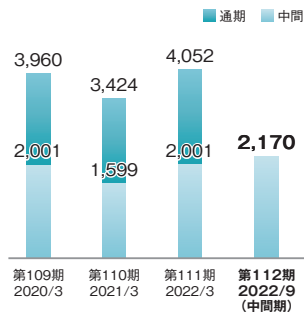
海外向けのトナー用レジンの販売
及び壁紙用の粘着剤の販売が堅調に
推移いたしました。

また、メディカル材料分野では、
リウマチ検査薬の販売が好調に推移
いたしました。

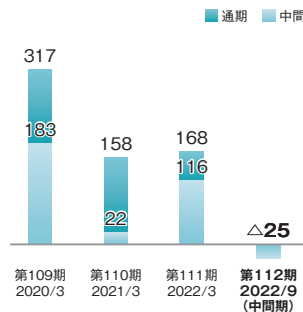
この結果、売上高は21億70百万
円（同8.4%増）となり、営業損失は25百万円（前年同期は営
業利益1億16百万円）となりました。



売上高
21億70百万円
(前年同期比8.4%増)



営業損失
25百万円
(前年同期比 -)



合成樹脂事業

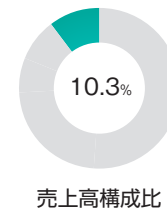


主要分野

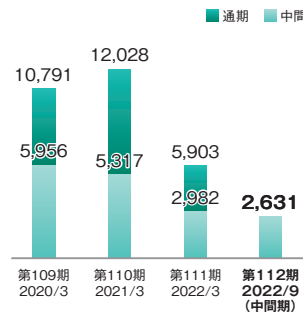
高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

車載用製品やリチウムイオン電池
用製品の販売は好調に推移いたしま
したが、液晶テレビ用製品や樹脂原
料の販売が低調に推移いたしました。

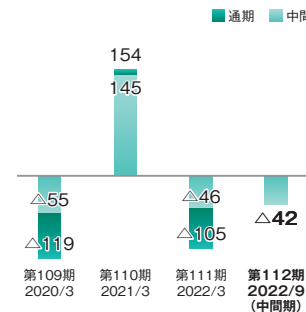
この結果、売上高は26億31百万
円（同11.8%減）となり、営業損失
は42百万円（前年同期は営業損失
46百万円）となりました。



売上高
26億31百万円
(前年同期比11.8%減)



営業損失
42百万円
(前年同期比 -)



会社概要 (2022年9月30日現在)

会 社 名 藤倉化成株式会社
本 店 所 在 地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本 社 事 務 所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設 立 1938年9月22日
資 本 金 53億5千2百万円
従 業 員 数 連結 1,272名
単体 450名
連 結 子 会 社 数 国内 4社 海外 15社
ホ ー ム ペ ー ジ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 3,974名

TOPIC

PT.FUJIKURA KASEI INDONESIAの
連結子会社化と新工場建設について

2022年7月29日に公表しました通り、当社はインドネシアにございます持分法適用関連会社PT.FUJIKURA KASEI INDONESIA（以下「FKKI」といいます。）に増資を行い、連結子会社とする予定です。

FKKIは稼働から15年が経過し、この間着実に成長してまいりました。FKKIは現在レンタル工場で生産を行っておりますが、安全性と品質を向上させることで競争力を高め、更なる成長につなげるため自社工場の建設を行うことといたしました。

今回の増資は新工場建設に伴う資金需要に対応するため、必要な資本の充実を図るためのものになります。

多くの自動車メーカーや部品メーカーが進出し、引き続き経済の発展や自動車生産台数の成長が見込めるインドネシアにおいて、今後も着実な成長を遂げるため、必要な投資を行ってまいります。